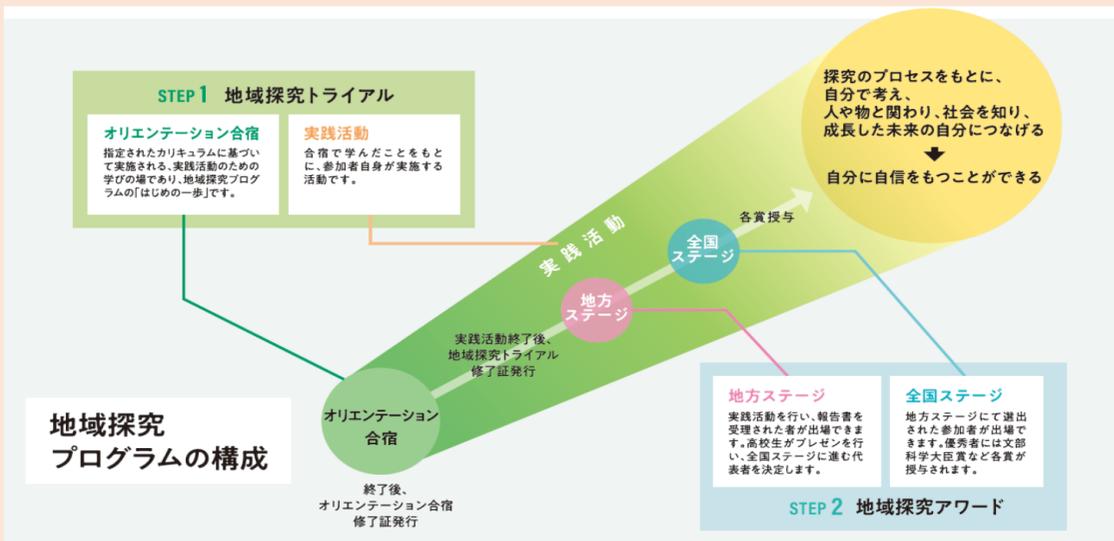


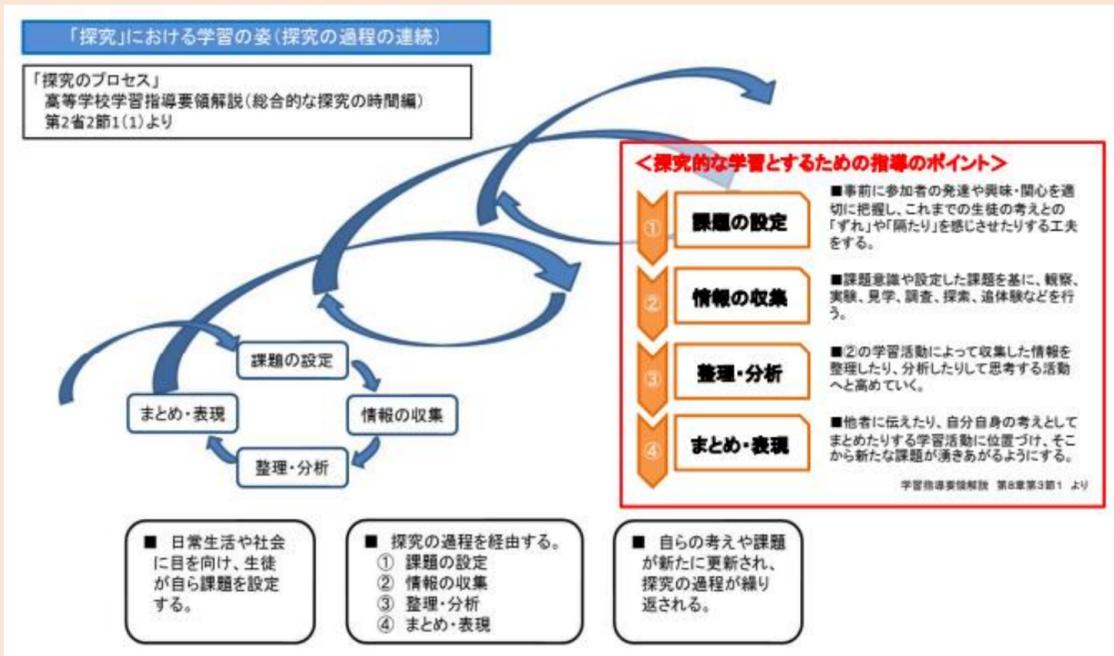
## 1. 地域探究プログラムの構成

「地域探究プログラム」は、高校生の体験活動を通じた成長を目指し、改訂された学習指導要領のキーワードである「探究」の手法を用いて学習を深める制度です。取組みを段階的に分けており、ステップⅠ「地域探究トライアル」とステップⅡ「地域探究アワード」から構成しています。「地域探究トライアル」では「探究」の学びと実践を、そして「地域探究アワード」では意欲の高い高校生向けに実践活動の顕彰を行います。



出典：全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」運営に関するガイドライン（2021年11月）

## 2. オリエンテーション合宿で学ぶ「学びのサイクル」



出典：全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」運営に関するガイドライン（2021年11月）

## 3. オリエンテーション合宿の実施例（連携校：前橋市立前橋高等学校）

【ガイダンス・事前学習を学校にて実施】※日程は、学校の年間指導計画に応じて、柔軟に対応します。

回	カリキュラム科目	学校にて、ガイダンス等を実施
1	ガイダンス	1回：施設職員が、「地域探究プログラム」について説明。 2回：前橋地域おこし協力隊の方（以下、講師）が、赤城山での活動を紹介。「赤城山活性化」について、参加者自身が深く調べたいテーマを設定。
2	講和等「地域づくりの実践」	

【オリエンテーション合宿を施設にて実施】※2泊3日または1泊2日で実施

回	カリキュラム科目	施設にて、「探究のプロセス」を体験する科目を実施合宿では、
3	フィールドワーク①「地域の魅力を発見」	3回：講師と一緒に、赤城山大沼周辺で「赤城山観光」を体験。 4回：体験した活動から、赤城山の魅力や課題について考察。 5回：考察から、「赤城山活性化プラン」のアイデアを考案。 6回：講師と一緒に「赤城山活性化プラン」の練り直し。 7回：発表に向けて、資料作成。 8回：施設で合宿のまとめとして、企画発表。 ※2年生12名、1年生5名が合宿に参加
4	講義・演習①「地域理解」	
5	講義・演習②「課題解決の基礎」	
6	フィールドワーク②「地域課題の探究」	
7	講義・演習③「地域課題の探究」	
8	発表①【合宿後の活動を学校にて実施】	
※2学期の授業に合わせて、日程を調整します。		

回	カリキュラム科目	学校にて、実践活動の事後学習を実施
9	講義・演習④「行動計画の基礎」	9回：合宿で学んだことを活かし「前橋市活性化プラン」をすすめる。 10回：学級ごとに「前橋市活性化プラン」を発表。 11回：「前橋市活性化プラン」に取り組む上での注意事項を確認し、実践活動を実施。 ※施設職員が学校を訪問し、合宿後の事後学習を支援
10	発表②	
11	実践活動のためのガイダンス	



オリエンテーション合宿の様子



<https://youtu.be/dEyD1kOtTw4>

活動の様子は、こちらからご確認ください。



国立赤城青少年交流の家  
公式YouTubeチャンネル  
ササビーチャンネル



<https://www.youtube.com/channel/UCWirCRSiXIt1fIZ3E714Qxw>

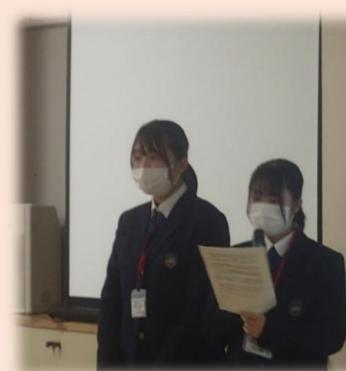
（全国ステージの様子も一部ご覧になれます。）

## 地方ステージ関東甲信越ブロック グループ部門 優秀賞受賞

「honey time」～蜂蜜を使って目指せ！町の活性化～  
のテーマで探究活動に取り組んだ前橋市立前橋高等学校2年生  
のみなさんからのメッセージ

自分から行動することの大切さを学びました。参加する前の私は他人任せでしたが、自分のためにならないと思い参加しました。将来大人になって必要になる力は探究活動で身につくと思います。探究活動は大変ですが、その分、自分の力になります。  
石本 遥華

他者の意見の中に自分のアイデアも入れ、自分も相手も納得できる案をつくるのが大切だと感じました。地域の魅力、課題、そして新しい自分を見つけることができました。地域のことも自分のことも、もっと好きになれるプログラムだと思います。  
櫻井 心叶愛



参加して自分を成長させることができました。他人の意見を否定せずに聞き、グループの雰囲気をよくすることが大切だと学びました。それに加え、一人ひとりの自由で突発的なアイデアも大切だと学びました。貴重な体験となり友人もたくさんできました。  
今井 陽菜

この活動に参加して自分の意見を言えるようになりました。グループで話し合いをしていく中で、よりよいものにするために切磋琢磨できたことがとても貴重な経験になりました。自分の武器を作りたいと思う人はぜひ参加してみてください。  
下田 歩果

参加した17名には、特に何かつながりがあったわけではありません。フィールドワークで地域課題を発見し、それを解決する具体的解決手段を協議しました。次第に主体的になり、協働する様子が目に見えてわかりました。彼らはチームとなりました。学びの本質がここにある気がしました。



前橋市立前橋高等学校  
教諭 M先生